

## カービュー マーケットウォッチ (2010年7月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

**乗用車全体では11カ月連続で前年を上回る!**

10年6月順位	10年5月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	31,876
2	(2)	→	フィット	ホンダ	15,955
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	11,625
4	(4)	→	カローラ	トヨタ	10,723
5	(5)	→	セレナ	日産	8,153
6	(8)	↑	ステップワゴン	ホンダ	7,601
7	(6)	↓	パッソ	トヨタ	7,275
8	(12)	↑	フリード	ホンダ	7,050
9	(7)	↓	ヴォクシー	トヨタ	6,663
10	(9)	↓	デミオ	マツダ	6,019
11	(11)	→	ノア	トヨタ	5,828
12	(10)	↓	ノート	日産	5,639
13	(13)	→	ウィッシュ	トヨタ	5,491
14	(14)	→	ヴェルファイア	トヨタ	4,920
15	(/)	↑	ジューク	日産	4,725
16	(16)	→	キューブ	日産	4,401
17	(17)	→	ラクティス	トヨタ	4,249
18	(20)	↑	エスティマ	トヨタ	4,014
19	(15)	↓	ティーダ	日産	3,985
20	(18)	↓	スイフト	スズキ	3,815

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

## カービュー編集部独自の分析

### ■乗用車全体では11カ月連続で前年を上回る！

ただメーカー間に勢いの差が見えはじめた…

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した6月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車全体では37万7162台で、前年同月比118.1%と11カ月連続で前年を上回った。前年同月比が2ケタ増になったのは8カ月連続で、金融危機以前の08年6月の販売台数36万3967台と比べても3.6%増となり、2カ月連続でプラスになっている。9月末での新車購入補助金制度終了に向け、駆け込み需要も予想されるだけに、売れ行きはまだまだ伸びそうな気配だ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車は24万5350台で、前年同月比121.3%。アップ率は前月より下がったものの、1~6月の前年同期比は136.6%と好調を維持している。しかしメーカー合計ではダイハツをはじめ、スズキ、スバルが前年割れ。ダイハツ、スズキは主力の軽乗用車を含めれば、前年同月比、前年同期比ともプラスだが、スバルは軽乗用車を含めても前年同月比は96.6%とマイナスだ。トヨタ、ホンダ、日産、マツダ、三菱が2ケタ増をキープしているだけに、スバルの低調ぶりが気になるころだ。月間ランキングでは14カ月連続トップの「トヨタ プリウス」、2位「ホンダ フィット」、3位「トヨタ ヴィッツ」、4位「トヨタ カローラ（アクシオ、フィールダー、ルミオンの合計）」のトップ4は4カ月連続で不動、5位は2カ月連続で「日産 セレナ」が入った。また6月9日にデビューした「日産 ジューク」が販売台数4725台で初登場15位と好スタート。受注台数も発売後約1カ月で1万台超と好調なだけに、今後も期待できそうだ。

軽乗用車は11万1237台で、前年同月比111.7%と4カ月連続のプラス。2ケタ増も2カ月連続だが、08年6月の12万1176台と比べると9.2%のマイナスだ。

輸入乗用車は海外メーカー製、日本メーカー製含めた全体で2万575台、前年同月比116.8%と8カ月連続のプラスで、2ケタ増も2カ月連続だ。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が販売台数5630台で6カ月連続トップ。続く2位は、3458台でBWM（ミニを除く）が2カ月連続、以下、3位メルセデス・ベンツが3426台、4位アウディが2026台、5位ミニが1262台だった。VWは「ゴルフ」などの主力車種にエコカー減税対象モデルを充実させたことで、前年同月比149.7%と大幅アップ。1~6月の累計では2万4861台、前年同期比132.5%で、08年の1~6月累計2万4883台にほぼ追いつく形となった。

### ■ココも気になる！その1

#### 日産が新車ラッシュで反転攻勢となるか

昨年はモデルチェンジの端境期となり、09年4月~10年3月の貨物車を含めた09年度国内総販売台数でホンダに抜かれ、3位に後退した日産だが、ようやく追撃態勢が整った。今年は6月に発売された個性派クロスオーバー「ジューク」を皮切りに、7月に「マーチ」、8月に「エルグランド」、さらに秋から年末にかけて、「フーガハイブリッド」、EVの「リーフ」、

「セレナ」などの登場が予定されているのだ。

この新車ラッシュの先陣を切った「ジューク」は7月5日時点で受注台数が1万943台となり、月間販売目標1300台の8倍超を記録した。好き嫌いが分かれそうなエクステリアだが、購入層は29歳以下男性11.0%/女性4.0%、30歳代男性15.0%/女性6.0%、40歳代男性14.0%/女性5.0%、50歳代男性19.0%/女性4.0%、60歳以上男性19.0%/女性2.0%と幅広い年齢層に受けている。横滑り防止装置（VDC）などが省かれているものの手頃な価格設定と、ラディアントレッド（このボディカラーが受注トップ）やレッド系内装などの見た目の斬新さが評価されているようだ。

また7月13日に発売された「マーチ」はタイ製ということで話題となっているが、99万9600円からというリーズナブルな価格やアイドリングストップ機能の採用による26.0km/Lの低燃費も魅力。月間販売目標はモデルライフ平均で4000台、今年度は6500台とされているが、すでに事前予約で5300台もの受注を集めているだけにスタートダッシュが期待できそうだ。

さらに8月発売予定の「エルグランド」は横浜をはじめ、札幌、名古屋、福岡の日産ギャラリーで7月31日まで先行展示中。新車購入補助金制度が9月末で終了することもあるが、日産のやる気を感じさせるキャンペーンだ。今年は日産から目が離せない！

## ■ココも気になる！その2

上半期はゴルフ、ポロでVW勢が1、2位をゲット！

輸入車の販売データを集計している日本自動車輸入組合（JAIA）は通常、メーカーブランド別のデータしか公表しないが、3カ月ごとに車名別の速報データを発表する。そこで今回は海外メーカー製乗用車の今年上半期、1~6月累計によるベスト10をチェックすることにしよう。

1位は「VW ゴルフ」で販売台数1万5462台（前年同期比142.5%/前年順位1位）、以下、2位「VW ポロ」6146台（211.9%/6位）、3位「メルセデス・ベンツ Eクラス」5613台（259.7%/8位）、4位「BMW ミニ」5480台（103.2%/4位）、5位「BMW 3シリーズ」5356台（89.4%/2位）、6位「メルセデス・ベンツ Cクラス」4495台（84.1%/3位）、7位「アウディ A4 シリーズ」2943台（94.8%/5位）、8位「BMW 1シリーズ」2837台（111.9%/7位）、9位「アウディ A3 シリーズ」2529台（130.4%/9位）、10位「BMW 5シリーズ」2438台（153.1%/11位）となった。

「ゴルフ」は2月にエコカー減税75%適合モデルを投入したほか、4月に17.0km/Lの低燃費を実現したトレンドラインを発売。「ポロ」も昨年10月にモデルチェンジしたのに加え、5月に新型1.2リッターエンジンを搭載し、全車エコカー減税75%適合モデルにするなど、積極的に公的支援策に適合させたのが大幅アップにつながった。「メルセデス・ベンツ Eクラス」は最新のクリーンディーゼルモデルを投入したほか、ステーションワゴンやカブリオレをモデルチェンジしたのが功を奏したようだ。

エコカー減税対応ではやや出遅れたBMWだったが、主力の3/1シリーズに適合モデルを設定するなど巻き返しに躍起。シトロエンやプジョーなどもニューモデルが好調なだけに、後半戦の盛り上がり期待したい

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報法務室 ([pr@carview.co.jp](mailto:pr@carview.co.jp))

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180

---